

支援部だより

第3号

令和7年9月17日
東京都立水元特別支援学校長
野口 幹人
担当：支援部

夏休みが終わり、子供たちの元気な声が学校に戻ってきました。これから校外・宿泊学習や水元まつりなど行事に向けての学習が始まります。異なる環境や活動にお子さんが戸惑うこともあるかもしれませんが、お困りのことがありましたら、担任やコーディネーターまでご相談ください。今号では、1学期の副籍交流の様子と、夏休み中に行われた研修会について御紹介します。

副籍交流の様子

今年度は49名の児童・生徒が、直接的な交流を行っています。

1学期に交流をスタートさせた児童・生徒の様子を、保護者の方の記録よりご紹介いたします。



<小学部2年生 直接交流>

久しぶりの小学校でしたが、教室までの道を覚えていて、歩く後ろ姿がルンルンしているようでした。教室に入ると、黒板に書かれた名前と大好きなキャラクターの絵をよく見ていました。手話で「こんにちは。」と挨拶すると、お友達も手話で挨拶を返してくれました。じゃんけん列車ゲームでは、お友達の肩につかまり、列の中に入ってニコニコで進んでいました。途中、フォローしてくれるお友達もいて、とても温かく感じました。

<小学部6年生 直接交流>

全校遠足に参加しました。1から6年生までの10人ぐらゐのグループに分かれて、少し遠くの公園まで歩き、簡単なレクリエーションをしました。道中、自然に友達と会話しながら歩いており、その姿を見て嬉しく思いました。

去年よりも補助に入る必要がなく、友達同士のコミュニケーションが増えており成長を感じました。

<直接交流 大切なお願い>

直接交流を予定している当日に、体調等の理由で、急遽参加ができなくなった場合は、分かり次第、至急、本校まで御連絡ください。本校から地域指定校に至急その旨を伝えます。地域指定校の皆さんは、直接交流の準備をして、楽しみに待っていてくださっています。やむを得ない理由で欠席になることもあるかと思ひます。迅速に地域指定校と連絡をさせていただくため、御協力をよろしくお願ひいたします。

☆出前授業を行っています

1学期は葛飾区・足立区内小学校3校にて、コーディネーターが交流先の学級・学年を事前に訪問し、出前授業を行いました。本校の紹介やお子さんの得意・苦手について、どのように関わって欲しいかなど、事前に保護者と内容を相談して実施しています。

交流先の子供たちや先生方に、お子さんのことをより深く知っていただくことで、充実した交流活動につながります。年度途中でも保護者の御希望に応じて実施しますので、担任までご相談ください。

☆間接交流で自己紹介！

間接的な交流でできることは、お便り交換だけではありません。

1学期には、保護者の方が手作りされた「自己紹介カード」を交流先の学校へお届けしました。学級のお友達の中で、「〇〇くん、家の近くで会ったよ!」と、話題になることがあるそうです。間接的であっても、顔が見える交流の可能性が見えてきました。

他にも、学校便りや学年便りのみの交換ではなく、お子さんの手紙や絵、折り紙等の作品を同封することで、子供たち同士が交流している実感をもちやすくなると考えています。御希望のある方は、担任までお伝えください。



【夏季研修会】

東京学芸大学 教育学部 教授

松尾 直博 様

「不登校児童生徒への配慮と支援について
～不登校支援において学校ができること～」



校内教員だけでなく、葛飾区・足立区内の小中学校より33名の先生方がご参加され、現在の教育現場において関心の高いテーマであることが伺えました。学校へ行きづらくなる理由は、友人関係や学習の問題だけでなく、「なんとなく不安」「気力が出ない」といった、本人にも説明しづらい気持ちが多く見られます。そのため、原因がはっきりしなくても不安やつらさを理解し、寄り添った支援をしていくことが必要となります。学校内の別室や特例校、オンライン学習など、多様な学びの場の充実が進んでいるので、お子さんに合った環境・学び方を見つけていくことが大切です。